



長崎大学学報

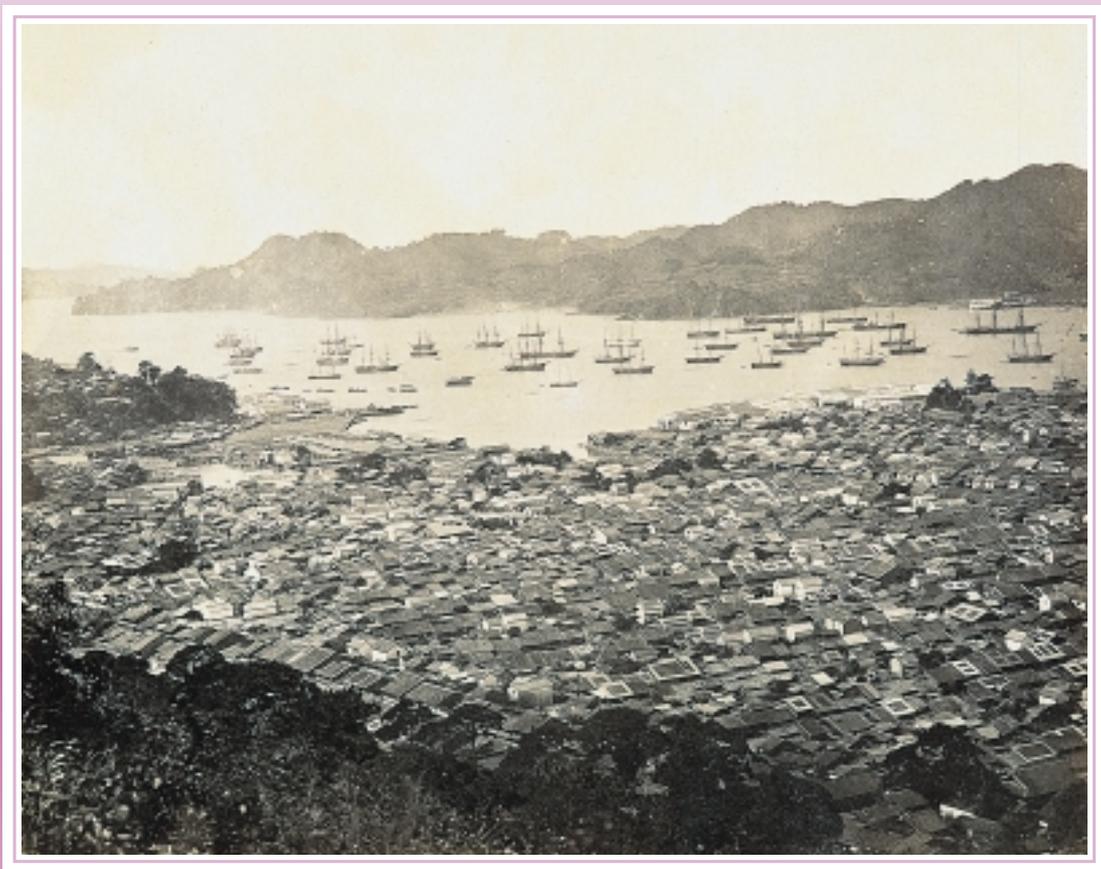
トピックス

(題字は池田学長)

平成14年度長崎大学入学式挙行
大学院環境科学研究科の門標上掲並びに入学式挙行
大学院医歯薬学総合研究科入学式挙行

第632号

幕末・明治期 日本古写真コレクション



長崎市街の中心と梅香崎居留地

5

平成14年

表紙写真説明

長崎市街の中心と梅香崎居留地

風頭山から長崎市の中心地及び出島，新地，梅香崎を遠望したものである。出島横の中島川口にはまだ橋がなく，長崎奉行所西役所の建物が右上の茂みの側に見える。新地蔵の裏はまだ海続きであり，できたばかりの梅香崎居留地には洋館群が建てられていない。海上には多数の外国船が浮かび，幕末長崎港の賑わいを見ることができる。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/univj/>

(長崎大学附属図書館所蔵)

目次

トピックス

- ・平成14年度長崎大学入学式挙行..... 2
- ・大学院環境科学研究科の門標上掲並びに入学式挙行..... 3
- ・大学院医歯薬学総合研究科入学式挙行..... 4

新任部局長寄稿

- ・教育学部長に就任して..... 5
- ・医学部長に就任して..... 7
- ・環境科学部長に就任して..... 8
- ・大学院生産科学研究科長に就任して..... 9
- ・大学院医歯薬学総合研究科長に就任して.....10
- ・医療技術短期大学部部長に就任して.....12

表敬訪問.....13

学内ニュース

- ・医学部・大学院医学研究科遺伝子解析倫理委員会要旨（医学部）.....15
- ・平成14年度第1学期放送大学を利用した職員研修開始（総務部人事課）.....15
- ・経済学部で新入生保護者に対する説明会開催（経済学部）.....18
- ・第5回長崎大学ファカルティ・ディベロップメント開催（学務部学務課）.....18
- ・平成14年度長崎県下国立学校等初任者研修実施（総務部人事課）.....19
- ・薬学部で「臨床教授」等の称号付与式挙行（薬学部）.....20
- ・池田学長 ライデン大学で記念植樹（総務部国際交流課）.....21
- ・平成14年春の生存者叙勲（総務部人事課）.....21
- ・外国出張者等一覧.....22
- ・外国人研究者受入状況.....24
- ・主要行事等.....25

お知らせ

- ・訃報.....26

教育研究事項

- ・電気化学会 進歩賞・佐野賞受賞.....26
- ・科学研究費補助金の概要.....27

学 事

- ・平成14年度長崎大学公開講座一覧.....29

人 事

- ・人事異動.....32
- ・氏名の変更.....33

学外の会議.....34

学内の会議.....34

(別冊)

- 全学規則等..... 1

トピックス

平成14年度長崎大学入学式挙行

平成14年度の入学式が、4月8日(月)長崎ブリックホールで挙行され、池田学長から、学部1,698名、専攻科5名、大学院261名及び本学併設の医療技術短期大学部専攻科20名の学生の入学が許可されました。

長崎大学管弦楽団(福田隆氏指揮)の迫力ある演奏後に始まった入学式では、新入生を代表して、医学部の池田光さんが入学の宣誓を行った後、学長から、「大学は、真に自らの力を養い、自らの力で生きる術を育み、世界で活躍できる人間になるために学ぶ場である。今、社会が求めている人材は大学で学んだ学問に加えて、厳しい状況下においても問題を解決する能力を発揮できる人間である。」との告辞が述べられました。



引き続き、学部長、研究科長等の紹介が行われた後、同管弦楽団の演奏をもって幕を閉じました。

その後行われたオリエンテーションでは、加藤副学長、附属図書館長及び保健管理センター所長から学生生活に関する講話がありました。



(総務部総務課)

大学院環境科学研究科の 門標上掲並びに入学式挙行

大学院環境科学研究科が本年4月1日に設置されたことに伴い、同日、門標の上掲式が行われました。

上掲式では、学内関係者の見守る中、池田学長、井上環境科学研究科長、廣瀬事務局長の手により「大学院環境科学研究科」の門標が環境科学部玄関に掲げられました。

また、4月22日(月)に同研究科の第1回入学式が挙行され、環境共生政策学専攻10名、環境保全設計学専攻17名の計27名の入学が許可されました。池田学長から「環境科学は本来実学であるから、研究についても社会の要請に応える必要がある」旨の告辞(代読)があり、井上研究科長からは、「環境問題の研究には、発想法の転換が必要である」旨の挨拶がありました。

同研究科が設置されたことにより、これまでの環



大学院環境科学研究科入学式

境科学部の教育研究の蓄積を踏まえた環境科学の高度化を図り、また、環境問題解決のための高度職業人育成が長崎を拠点として展開されることが期待されます。



門標を掲げる左から井上環境科学研究科長、池田学長、廣瀬事務局長

(環境科学部)

大学院医歯薬学総合研究科入学式挙行

大学院医歯薬学総合研究科の第1回入学式が4月25日(木)に医学部記念講堂において挙行され、博士課程104名、博士後期課程8名、博士前期課程44名の計156名が入学を許可されました。

新入生を代表して新興感染症病態制御学系専攻の池田真帆さんの宣誓の後、池田学長の告辞、関係部局長等の紹介があり、式は無事終了しました。

式終了後に行われたオリエンテーションでは、谷山研究科長から履修方法等について詳細な説明が行われました。

本研究科は、既存の医学・歯学・薬学研究科を再編、総合することにより、教育研究の高度化と学際化を図るために設置されたものであります。



(大学院医歯薬学総合研究科)

新任部局長寄稿



教育学部長に就任して

教育学部長

橋本 健夫

長崎の山々に薄黄緑色のこんもりとした盛り上がりが見られるようになりました。暖帯特有ののどかな春です。気の早いトンボが飛び、川面には多くの虫たちが群れを作り、ツバメが子育てに忙しいいつもの春が広がっています。

この春に、教育学部では異変が起こりました。素晴らしい人間性と確かな業績を持った先生方が就任されてきた教育学部長に、それらとはほど遠い私が選ばれてしまったからです。ここにきて弱音を吐くわけには行きませんが、ほぼ4年間教育学部所属という認識を意識的に遠ざけてきた私にとって、先生方の気持ちがスムーズに把握できるだろうか、うまくコミュニケーションがとれるだろうかなどかなりのプレッシャーがかかっています。このような春を迎えた背景には、様々なことが考えられますが、大きな理由としては、教育学部の再編・統合という重い課題がいとも簡単に「聖域なき改革」の中に持ち込まれ、実行が迫られるという時代になったからだと思います。

今思えば、私の小学校時代はまさしく戦後の民主的國家建設に向けた新しい教育が緒についたときでした。現在と比べてどの部分に力が入っていたのか明確にわかりませんが、のどかで楽しかったことの方がよく浮かんできます。しかし、半時間かけて通った松林に囲まれた小学校では、先生方によく叱られました。何度も立たされた廊下もよく覚えています。先生を恨んだことはありませんでしたが、ただ、休み時間になっても先生の許しが出ないときはさすがに情けなかったものです。楽しかった一つは、学校から10分も歩けば着く美しい白浜で行われ

る「宝探し」です。先生方があらかじめ隠しておいたノートや鉛筆を、「よーいドン」で一斉に捜すのですが、上級生の間隙を縫って小さな消しゴムを見つけたときは最高でした。

新しい教育の一端なのでしょうが、小学校ではよく討論会が開かれました。いろいろなテーマがありましたが、はっきりと覚えているのは、「運動会の賞品」と「卒業アルバム」です。運動会は、前の日から応援する席を取り合うぐらいの地区総出のお祭りでした。ノートや鉛筆といった賞品も多く、駆けっこの得意な子どもたちにとって両親や隣近所の人にアピールする絶好の機会でした。しかし、子ども会で賞品はなくて参加賞にしようと思ったのです。多少の不満もありましたが、運動会当日にはこの方がいいなという声が聞こえてきました。卒業アルバムも写真屋さんに任せていたのを、どのようなアルバムにするか自分たちで考えました。そして、学級全体の写真は写真屋さんに頼み、個人分については自分たちで選び、自分で貼って完成させることになりました。両親たちはせっかくの記念だからきちんとしたもの方がいいのではという意見でしたが、子ども会の主張が通りました。でも、写真を体裁よく並べ、貼るとするのは、小学校6年生の私にとって大変な仕事でした。この卒業写真集は、度重なる引越して手許にありませんが、どのような写真を貼ったかは今でもはっきりと覚えています。

これらは、いずれも当時の先生方が民主的な社会の構築のための教育を真剣に考え、地域の人たちと一緒に子どもたちを指導して下さった結果なんだなあと、今思うことができます。私が小学校に

入学してから50年が経とうとしています。その間、社会は大きく変化しました。学校も多くの深刻な問題を抱えるようになりました。単純にそれを学校や教員のせいにするわけにはいかないと思います。子どもたちを取り巻く様々な環境の悪化が重なり合っており、現在の教育の危機的な状況があると考えているからです。

日本は伝統的に資質の高い教員を養成し、学校に配置してきました。この質の高さは、養成機関だけで請け負ったものではなく、地域の教育界が側面から支え続けた結果であると考えています。特に、地域の教育界は右も左も分からない新任の教員を、ある時は先輩が、またある時は地域が叱咤激励し、一人前のその地域の教員に育て上げてきました。教員の免許状は地域を限定するものではありません。しかし、地域には特有の歴史があり特徴ある文化を育んできました。地域を育て、かつ日本社会の充実と進歩を着実に進めるためには、学生募集の段階は言うに及ばず教員養成、採用、研修の各段階に於いて地域の教育界と連携して役割を果たす教員養成大学・学部の存在は必要不可欠からざるものだと信じています。その教員養成及び研修、向上の土壌が、「必要なのですか」或いは「もう少し効率的にできませんか」と問われていることにやり場のない憤りを覚えます。

もちろん、教員養成大学・学部には反省すべき多くの事柄があります。教育は時代や社会の要求に基づいて誕生し進められてきたにも関わらず「こうあるべきもの」に固執し、自己主張を繰り返してきた傾向があったことは事実だと思います。また、教育を主たる生業にしているにも関わらず、大学に於いて誰よりも教育の重要性を主張し、その充実のための方策を提言してきたかという疑問が残ります。他にも多くの反省点があることでしょう。これらの改善は、いずれも教育学部の緊急課題として捉えています。ただ、わかりやすく発信し直せば、「なるほど」と言って頂けるものもあると考えています。

現時点では教育学部のこれからの方針を明確に示すことはできませんが、次の二つの事項に積極的に取り組みたいと考えています。

(1) 学生主体の学部への転換

大学の役割は教育と研究であるということは、誰

も否定することはできないと思います。特に、大学進学者が18歳人口の半数を超えようとしている現在、大学に大きく求められているのは教育機能であることも多くの人たちが知っています。

この大学の教育機能の向上を追究するにあたっては、まず第一に、大学に学ぶ学生たちを大切にするという視点を忘れてはなりません。

大学は、教員人事に見られるように研究業績を最優先してきました。大学の施設・設備に関しても研究重視の立場は崩れなかったと思います。それは、教室の設備が老朽化しているにも関わらず改善が進まないことや学生学習室の絶対的な不足となって現れています。このような学習環境を早急に改善し、自主的な学生が十分に勉学に励むことができる教育学部にすることが私の責務だと考えています。

(2) 教員養成システムの飛躍的な向上

3月の評議会で教育学部の存続という大学の意志を確認して頂きました。この確認には、素晴らしい教員を多く輩出させて欲しいとの全学のメッセージも含まれています。この期待に添うべく将来の社会に必要な教員の養成に学部の総力を挙げたいと思います。長崎大学教育学部出身の教員を是非採用したいとどの県の教育関係者も思うようになるための教員養成システムの構築を優先したいと考えています。

このためには、長崎県の教育界に協力を仰ぐとともに、附属校・園と力を合わせて実践的な研究に学部挙げて取り組む必要があります。そして、その結果をスムーズに教員養成システムに反映することが重要だと考えています。

この3月まで副学長をさせて頂いたおかげで行政の一端に触れることができました。その結果、行政も教育も根は同じだと思うようになりました。施策の向こう、教壇の向こうに明るく信頼しきった顔がなければ、成果は期待できないということです。これまでに支えて頂いた先生方や職員の皆さんの力を無にすることのないように、そして、学生さんを含めた学部の人たちの意見が反映できるように努めたいと思います。よろしく申し上げます。



医学部長に就任して

医学部長

兼 松 隆 之

平成14年4月1日付けで医学部長を拝命しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

医学部における私の専攻は外科です。なかでも消化器外科を中心に、ここ数年は肝移植に力を注いできました。現在まで18例の生体肝移植を実施し、学内の協力体制もほぼ整ったことに感謝しています。人工肝臓の臨床応用はこれからのテーマですが、すでに医学部の倫理委員会で承認されており、近い将来、実施の方向で進みたいと考えています。

医学部はここ数年、次々と組織改革がなされてきました。新興感染症病態制御学系が大学院独立専攻として設置されたことを振り出しに、翌年には基礎・臨床融合型の大講座編成が行われました。そして昨秋に保健学科が創設され、今春には医歯薬学総合研究科が立ち上がりました。医学部の中では附属病院は大きな役割を果たしていますが、その医学部附属病院は澄川耕二病院長の下、歯学部附属病院との統合が検討中です。

これらの改革の底流にあるものは旧来の医学部にあった講座単位の作業効率には限界があり、異なった組織が新たに別の集団として機能することが求められたものと考えます。すわなち、確立した個々の講座がお互いの個性を尊重しつつ、足りない点を補うことを目的とした流れです。確かに一般社会でも20世紀は競争の時代であったが、21世紀は協調がキーワードになる、といわれています。異なったグループが協調し、新たな医学部としての色を出していかなければなりません。とはいっても、従来からの慣例から抜け出すのは生やさしいことではありません。医学部内の大講座編成にしても枠組みは出来たものの実働実績はないのが実情です。医学部としては教育はすでに講座の枠をはずしてのカリキュラムが組

まれ実践されていますが、研究に関しての実績作りはこれからです。しかし、基礎と臨床の講座がいっしょにカンファレンスを開いたり、一つのテーマで共同研究を行うなど、少しずつ“協調”が芽生えつつありますので、これらを一つのモデルとして裾野を広げていきたいと考えています。

医学科と保健学科は、保健学科の前身である医療技術短期大学部時代から人的あるいは教育的交流がありました。しかし、2つが統合された現在、ここでももっと頻繁な協調が切望されます。特に、教育の面で互いの協調が必要でしょう。今や医療は医師、看護師、それから技師等々の職種が相集い医療を展開する、いわゆるチーム医療の重要性がうたわれています。そのためには卒前教育からチーム医療の考え方を取り入れることが極めて重要と認識しています。今後、この点に重点をおいた教育システムの構築に力を注がねばならないと考えています。

医学部はオランダの軍医ポンベによって初めて西洋医学の講義が行われた1857年（安政4年）を創設の年としています。2007年（平成19年）には本学部は創立150周年を迎えます。医学部としては、創立150周年を一つの「旗印」として、長崎を世界にアピールしたいと考えています。「長崎大学医学部ここに在り」という力強い情報を世界にむけて発信したいものです。今から同窓会の方々とも相談を重ね、教職員、学生が集いその準備に着手します。種々御協力をお願いするかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

どうぞこれからの2年間、よろしく御指導賜りますようお願い致しつつ、謹んで就任の御挨拶を申し上げます。



環境科学部長に就任して

環境科学部長

井上 義彦

平成14年4月から2年間学部長を拝命しました。環境科学部が悪戦苦闘の末に平成9年10月に創設された時に、初代学部長に就任したので、今回と同じ原稿を何か書いた記憶はあるが、具体的な内容は殆ど覚えていない。そこで、初めてのような気持ちで書くことにします。

私の生まれ故郷は長崎市の浦上（今の平和公園の爆心地の近辺）でしたが、長崎原爆投下の直前に福岡の筑後地方に疎開していたので、財産はすべて焼失したが、身内では私の家族だけが身一つで無事だった。それだけに長崎はいつも何故かしら懐かしく、遠い甘い夢のような感傷を感じた。その長崎に縁があって、長崎大学に着任できた時には何か因縁めいたものを覚えました。ふるさとは遠くにありて思うもの、という詩句がありますが、でもやはり故郷の長崎は、気候も温暖で魚も果実も美味しく、人情味のある良い土地柄であるというのが実感であります。

さて、環境科学部は国立大学最初の文理融合型の環境系学部として創設されて5年目の今日、大学院環境科学研究科（文系の「環境共生政策学専攻」と理系の「環境保全設計学専攻」から成る）が、間をおかずに設置されたことは本当に特筆に値することです。

学部創設の折の苦勞を思い出すと、研究科設置に尽力された関係各位のご努力とご苦勞に敬意と謝意を表したいと思います。

それにしても、開設間もない本学部にとって、昨今の大学を巡る激動は心胆を寒からしめるものがあります。先ずは例の「遠山プラン」に示された国立大学の構造改革であります。すなわち、(1)大学の再編統合、(2)経営手法の導入、(3)競争原理の導入という3原則であります。次はそれを受けての国立

大学の独立法人化の問題であります。すわなち、各大学ごとの独立採算制の経営努力と非公務員身分への移行であります。

誕生間もなく未だ十分な設備も体制も完備していない本学部にとって、こうした大学環境の急激な変化は、学部存立の基礎をゆるがしかねないような、あるいは大学・学部淘汰の渦に巻き込まれかねないような重大で苛酷なものであります。せめてあと少しの猶予があればと思うだけでも、今更所詮無駄なことでしょう。今の私の役割は、長崎大学の中で学部の舵取りを誤らないことであると自戒し肝に銘じています。

それにつけても痛感することは、長崎大学が同じ旧六の中でも、文理の基礎研究学部たる人文系学部と理学部のない総合大学であるという事実です。総合大学として、文理の基礎研究学部がない事実は寂しい限りです。

翻って、これから大学経営にとって採算のとれるような、社会のニーズに合った実用的な学問が重要視されていく風潮の中でも、大学本来のあるべき理念からいって守るべき学問体系があるのではないだろうか。ちょうど生態系における生物多様性の重要性と同じように、大学における学問の多様性こそが大学の学問全体の存在と価値を高め強めるものではないのだろうか。有用な実学（技術知）優先の中で、無用の用たる虚学の存在する可能性はもはや本当にならないのだろうか。

操り言はやめて、現実を直視しよう。私達が生きる現実の透徹した理解の上にこそ、将来の確かな前進も約束されるからである。

環境科学部は、学部レベルでは、広く深い環境問題を有効に解決できるために、各学問群を特化し高度化すると共に、学際的な総合的な環境問題に有効

に対処できるように、学部の理念としての文理融合の実を上げるように文理の学問の統合化になお一層努力しなければならない。そして同時に、大学院レベルでは、環境科学研究科の高度化・充実化を図る

と共に、独法化の前までになんとしても文理の大学院後期（博士）課程の設立実現に邁進しなければならない。

大学院生産科学研究科長に就任して



大学院生産科学研究科長

石原 忠

この度、生産科学研究科長を仰せつかりました。研究科長としての役割を十分に果たすことが出来るのか不安でいっぱいですが、前研究科長の浦教授の後を受け、また諸先生方のご協力のもとに2年間の任を務めたいと考えています。独立大学院である本研究科は学部段階では全国的にも非常に珍しい組み合わせである工学部と水産学部という2つの学部を母体にし、昭和63年に2専攻を置いた海洋生産科学研究科（後期3年博士課程）として発足しました。以来14年が経過しましたが、平成12年度には新しく1専攻を設置すると同時に、両学部の修士課程をも研究科に取り込み、博士前期課程と博士後期課程からなる研究科へと発展して来ました。また、名称も海洋生産科学研究科から生産科学研究科と改称し、さらに、平成13年度には博士後期課程の旧2専攻も改組し、現在学年進行により改組発展中です。この間、関連業界に多くの有為な人材を輩出して来ましたが、このように両学部を母体として発展中でありませんが、更に、大学改革が進む中であって、本研究科は近い将来環境科学研究科の一部を取り込んだ自然科学研究科へと発展させる構想が大学内に醸成してきていることは周知のことと思います。このように発展過程での大きな懸案事項を抱えている時期に研究科長に就任したことの責任の重さを痛感しております。

私事になりますが、私は昭和13年樺太で生まれま

した。父が工学部採鉱冶金学科（現在では聞くことのない学科）出身であった関係上、樺太の大地が職場であったとのことです。以来、終戦を迎え、私が小学校を卒業したのは5つ目の学校でした。（終戦とその直後の占領下での転校で既に2校、引き上げ後3校）。従って、私は故郷が無いような感じで大人になったように感じています。最近では、返事に困って「故郷は？」との質問に対して「長崎です」と答えるのですが、やはりしっくりしません。昭和38年に本学水産学部を卒業後、助手に採用され、以来39年間本学に奉職して来ました。私が水産学部を専攻した動機は、小学校5年から中学1年の頃の島根県松江市での生活が影響しているのではないかと考えております。「宍道湖」と「中の海」との間で、海・川・池を遊び場として育ったためのようなのです。

さて、生産科学研究科は、先にも述べましたように、平成13年度には、工学部と水産学部の修士課程以上の教育の一貫性を重視して、両学部の修士課程を研究科に取り込み、博士前期課程と博士後期課程を持った5年一貫の大学院教育を目指した研究科へと発展して来ております。即ち、両学部の分野をなお一層緊密に協力しあって総合科学的な研究・教育を勧めることを目指した、特色ある独立研究科としての発展に努めております。従いまして、研究組織、教育課程にも本研究科独特のユニークな試みもなされております。例えば、工学部・水産学部の両学部

の教官の協力による各種のプロジェクト研究及びそれらのプロジェクト研究に対する研究費の助成、また、カリキュラムの一環としての海洋実習・見学、さらには、国際共同研究の端緒にもなっています。日・韓海洋科学シンポジウム等の国際交流も行っております。研究科としては変則的なところも多く、研究科の教育に携わる教官は両学部を合わせると139名の教官がおりますが、研究科の専任教員は、教授9名、助教授9名、助手6名のみです。現在博士後期課程は学年進行ですので、学年進行中の要求定員が揃えば、平成15年には更に助手が3名増員になる予定です。以上のように殆どは、工学部、水産学部所属教官の併任によって構成されております。

学生の受け入れの入り口側は、社会人・外国人留学生に対する特別選抜試験を実施しています。社会

人に対しては在職のままの入学が可能になっております。また、本年度より昼夜開講制を導入する予定で検討しております。これにより公務員等の社会人の入学の窓口が広がることが期待されます。現在まで、15年間に博士授与者は285名に達しており、構成員各位の努力が実っていると密かに自負しているところです。

一方、施設面では独自の研究棟はありませんが、現在建設中の総合研究科棟の中の数フロアを工学部と水産学部で使用できるとのことで、現在より多少恵まれた環境になることが期待されていますが、とても十分とは言えません。学内の皆様方にこのような現状をご理解頂き、本研究科の今後の教育・研究の一層の発展にお力添え戴きますようお願いする次第です。

大学院医歯薬学総合研究科長に就任して



大学院医歯薬学総合研究科長

谷山 紘太郎

このたび医歯薬学総合研究科長を拝命致しました。ここに自己紹介させて頂くとともに、医歯薬学総合研究科の概略を記させていただきます。

私は、昭和42年神戸医科大学を卒業し、一年間の医学実施修練（旧インターン制度の最後）の後、大学院で薬理学を専攻致しました。学部学生時代に基礎医学教室配属実習というカリキュラムの下で薬理学教室に入りをしたことがきっかけで、大学院入学以来今日迄薬理学の教育、研究に携わって参りました。平成2年6月に本学に赴任し、本学医学部の環境に慣れ、本格的に薬理学の教育研究に邁進できるものと思ったのも束の間、医学部教務委員長、医学研究科大学院委員長に任命されて実務に追われ、それから開放された途端創設されたばかりの研究科の長となり、私自身が望んでいた方向性とは全く

違った教員生活になりそうで、再び、国内学会への参加は最小限に、国外は皆無に抑えるなど公務優先の日々を送らなければいけないのかと些か暗い気持ちになっております。何よりも、共に教育研究に携わっているチームの教員、職員、大学院生にまたまた迷惑をかけ、教室主任としての任を果たせないことになるのかと心苦しく思っているのも実情であります。

薬理学は研究そのものに独自の手法がなく、解剖学、生理学、生化学の手法を駆使して、生体レベルから細胞内レベルに亘って応用理論を組み立てることができる学問分野の一つであります。広範囲な分野の中で専門とすべき研究主題は、私の場合些か無節操で、研究環境の変化と気候な性格によって転換致しました。大学院生時代は学園紛争の最中であり

ましたが、平滑筋の収縮、弛緩機構とCaイオンとの関連という主題で研究に打ち込むことができました。薬理学教室の教官として従事する間、西独マックスプランク研究所の脳研究部門に出張し、中枢神経薬理の研究を行い、帰国後は、臨床医学とリンクした自律神経の研究、特に消化管運動、分泌、膀胱運動の神経性調節機構の研究に、一方で基礎医学としての神経系を中心にした細胞外、細胞内情報伝達機構の研究に手を広げ、今日に至っております。薬理学のどこに魅力があり、無節操にも色々な主題に手を付けるのは何故かと自問自答するのですが、明確な解答が得られないまま、唯、好奇心があること、新しい事実を見出した時の感激、その事実が論文として活字で公表された時の喜びに対して麻薬の如き嗜癖に陥ったように思われます。最近では、動物実験や細胞レベルでの実験で得られた結果がヒトの臨床にも通用することが分かった時の喜びが一層強くなり、少しは薬理学者の端くれに位置できるようになったのかとも感じています。

「医歯薬学総合研究科」大学院部局化の目的

現今の社会状況の急速で大きな変化に対応するためには、教育研究組織の抜本的改革に基づく「知」の再構築が緊急の課題であります。当然長崎大学において、大学院組織の再構築による教育・研究の高度化が要求されます。生命・医療領域における急速な高度化・専門化の状況のもとで、医・歯・薬学系大学院の教育研究体系を再編統合することにより、長崎大学における生命・医療科学領域の教育研究の拠点を大学院へシフトし、教育研究内容の学際化と高度化を図る必要があります。このことにより、高度の専門的知識と経験を有し基礎研究・先端医療・創薬・保健行政・国際貢献の各分野で21世紀の生命医療科学を中心的に担うことのできる研究者および高度専門職業人を育成することが可能になり、同時に学部教育カリキュラムの学際化・効率化を図り、社会が要請する全人的資質に溢れた医師・歯科医

師・薬剤師を養成することが可能になると考えられます。

課題

目前の課題としては、⁽¹⁾大学院学生のだ員を充足することです。大学院の部局化すなわち重点化により、大学院学生のだ員が大幅に増加したので、これまで以上にのだ員を充足させるための努力が必要です。多くの大学院学生のだ学を可能にするために、^①社会人履修制度（昼夜開講制）、^②秋季入学制度を導入しますが、更なる努力が必要であります。⁽²⁾学位取得のために標準修了年限の違いをどのように処理するかであります。博士号学位取得のための課程の標準修了年限は博士（医学）、博士（歯学）で4年、博士（薬学）の学位取得のための博士（後期）課程でのそれは3年であります。したがって、標準修了年限4年生の専攻に所属する学生が博士（薬学）を取得する場合には、生命薬科学専攻での博士（薬学）を取得する場合より標準修了年限が1年余分になることです。⁽³⁾キャンパスが坂本地区（医学、歯学）と文教地区（薬学）に分散しているために生じる障害として、大学院の講義室・セミナー室の確保、教授会開催の場所、室などがあります。更には、目前に控えた「21世紀COEプログラム」への対応、2年後に控えた「国立大学等の独立行政法人化」への対応も含めて、組織の管理運営、施設の管理運営、学務、人事、会計等における従来の学部単位での異なったシステムをどのように調整、一元化していくのか等の大問題もあります。

以上、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の概略を記しました。総合研究科大学院としてのメリットを最大限に活かすための課題は山積していますが、一つ一つ解決に向けて努力をする覚悟です。医歯薬学総合研究科の構成員の方々はもとより、長崎大学の全構成員の方々に御協力、御援助、御指導を切にお願い申し上げます。

医療技術短期大学部部長に就任して



医療技術短期大学部部長

寺崎 明美

過渡期における組織運営

この度、医療技術短期大学部部長を拝命致しました。大変未熟で御座いますが何卒よろしくお願い致します。

医療技術短期大学部は昭和59年4月に看護学科が設置されまして、同年10月に理学療法学科・作業療法学科の設置、昭和62年4月に専攻科助産学特別専攻が設置され、先輩の諸先生方のご努力によりまして今日に至っております。そして、平成13年10月に改組によります医学部保健学科の設置となり、本年4月より学生の受け入れを開始致しました。そのために1年生は医学部保健学科に、2年生・3年生と専攻科助産学特別専攻の学生は医療技術短期大学部に在籍していることとなります。なお、医療技術短期大学部専攻科は平成16年度まで学生を受け入れることとなりますので、医学部保健学科の学生のみになるのは平成17年度からであります。

しかも、大学改革最中の組織は、現在事務組織においては医療技術短期大学部（一部は異なる）であり、教員組織は医学部保健学科という大変複雑な状況での、全体を包括する過渡期における組織運営となっております。

この様な関係上、医療技術短期大学部と医学部保健学科の教育・研究・組織上のバランスを、教官ともども如何にうまくコントロールしていくかが課題であります。目下のところ全学教育を除く月曜日、火曜日は、両学生は同じ建物内で特に支障なく学習を進めております。そのなかで短大生には、今まで卒業後の進路で進学者も多く見られておりますが、身近に保健学科が設置されチャンスも広がりましたので、一層自己を磨くことへのチャレンジや将来へのロマンへと繋がって欲しいと願っております。

現実的なことでは、学年進行に伴い建物全体のキャパシティの問題が出てまいりますので、学内におきましては施設整備作業部会で計画を進めており

ます。現在の建物は看護専門学校から医療技術短期大学部へ、短大学年進行と専攻科が加わることによる3度の建て増しによる歪な建築物となっております。そのため、今後の建物の改修・増築におきましては教育理念・カリキュラムを踏まえた21世紀の教育・研究に相応しい建築計画が進められますことを学生は勿論、関係者一同願っております。

専門職としての医療技術者の育成と課題

看護学、理学療法学、作業療養学は、人間の生命や生活上のケアを中心とする問題に直接的に関与し、その人なりのQOLを高めることを目標とした専門職業人の育成を目指しています。すなわち、きわめて人間的な営みを追求する人間学で、学際的特徴をもつ学問であります。しかし、歴史が浅く今後独自の学問領域として開発、研究を重ねる必要があります。人間の反応や行動としての健康上の問題を、ケアリングやQOLの視点で個別的な事象レベルを、如何に科学的にとらえていくかが課題であります。特に看護系大学は100校を超えていますが、その多くは単科大学であります。そのため、長崎大学の総合大学のメリットを存分に生かして、他学部との連携における協働と叡智を授かることが出来れば、グローバルな先見の見地に立って、健全な形で発展し続けることが可能なのではないかと考えます。しかし、近年の相次ぐ医療従事者によるショッキングな出来事や不祥事は言葉になりませんが、医療に携わる者の専門職教育の重要性と質の向上は、社会や国民の切実なニーズであります。人の痛みや苦しみ、命の尊さと対峙することによって琴線に触れ、心が動いていく感性教育の充実が叫ばれていると思いますし、それに応えていくことが教育に携わる者の責務であると考えます。微力ではありますが努力を重ねてまいりたいと思いますので、何卒、諸先生方をはじめ関係者の方々のご協力とご指導を、よろしくお願い致します。

表敬訪問

韓国江原大学校と大学間学術交流協定を締結

4月4日(木)に、韓国江原大学校朴龍壽総長等3名が、大学間学術交流協定締結のため来学されました。

学長室において工学部の崎山学部長、野口教授及び古本教授立会いのもと、池田学長と朴総長が協定書に署名を行い、両大学の協定が結ばれました。

江原大学校は、1947年に春川農業大学として韓国江原道春川市に設立され、1978年江原大学校と名称を変え、現在は13の学部からなり、教職員数約1,000人、学生数17,000人を超える韓国有数の大学です。

両校の交流は、1995年に工学部の後藤教授が同大

学校環境研究所において招待講演を行ったことから始まり、共同研究、シンポジウムの共催などを経て、今回の協定締結に至りました。

江原大学校は設立後50数年の新しい大学ですが、“21 Brain-Korea Fund”という韓国政府の重点的経済支援受給校に選出されるなど、目覚ましい発展を遂げつつあります。

今後は工学部だけでなく、幅広い分野での研究者、大学院学生及び学部学生の活発な交流が期待されます。



協定締結を終えた池田学長と朴総長

(総務部国際交流課)

中国福建医科大学陳校務委員会主任一行が 学長を表敬訪問

中国福建医科大学の陳 揚義校務委員会主任，閻 福華歯学部附属病院常務副院長，曾 玉水基礎医学部院務委員会主任及び陳 炳丁総務部長が4月15日(月)から4日間の日程で本学を訪れ，同日池田学長を表敬訪問しました。

今回の訪問は，医学部と締結されていた学部間協定を拡大発展させる形で平成13年8月に両大学間で学術交流協定が締結されたことを受けて，更なる学術交流や学生交流の伸展について協議するために来

学されたものです。

学長との懇談は，平成12年9月に池田学長が福建医科大学を訪問した時のことや，両校のこれまでの学術交流や共同研究，及び今後の学生交流等について活発な意見交換がなされました。

一行は16日(火)に医学部を，17日(水)に歯学部を訪問し，学術交流，授業見学，視察等を行い，18日(木)午後長崎を後にしました。



学長表敬の状況

(総務部国際交流課)

学内ニュース

医学部・大学院医学研究科遺伝子解析倫理委員会要旨

医学部及び大学院医学研究科は、医学部・大学院医学研究科遺伝子解析倫理委員会持ち回り委員会を3月18日付けで開催しました。

以下、長崎大学医学部・大学院医学研究科遺伝子解析倫理委員会内規第7条の規定により、議事要旨を公開します。

要旨

(出席者 5名)

次の申請課題が審査され、承認された。

申請課題	申請者	審査結果
口唇・口蓋裂の発生制御遺伝子の単離	原研分子医療部門 吉浦孝一郎	承認

(医学部)

平成14年度第1学期放送大学を利用した職員研修開始

平成10年4月から職員の自己啓発の一環として、放送大学を利用した職員研修が実施されていますが、平成14年度第1学期分がこの4月から始まりました。

この研修は、職員を放送大学の科目履修生として入学させ、放送授業により行うもので、職員が幅広い教養を身につけることによって、資質の向上を図ることを目的としたものです。

今回は42名の職員が、33科目を受講します。受講生は時間外に独自に15回(1回45分)の放送授業を視聴等して学習することになりますが、学期の途中で放送大学から一定範囲の問題が出題される通信指導に合格したうえで、学期末に実施される単位認定試験を受験することになっています。

平成14年度第1学期放送大学利用による職員研修受講者一覧

情報工学と社会(テレビ)

所属	職名	氏名
教育学部	庶務係	久保智裕

英語Ⅰ(ラジオ)

所属	職名	氏名
学務課	教務主任	南部美千代

韓国語Ⅰ(テレビ)

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
人事課	専門職員	南里善久	教育学部	学務係長	鳴海幸雄

英語Ⅱ（ラジオ）

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
国際交流課	専門職員	葛 島 浩 司	医学部	用度係	大 橋 涼 子
国際交流課	専門職員	濱 野 繁 文	歯学部附属病院	歯科技工士長	永 野 清 司
水産学部	学務係	多 良 安 正			

英語Ⅳ（テレビ）

所 属	職 名	氏 名
附属図書館	経済情報係	山 下 昭 光

中国語Ⅱ（ラジオ）

所 属	職 名	氏 名
経済学部	庶務主任	山 本 隆

企業の経済学（ラジオ）

所 属	職 名	氏 名
主計課	課長補佐	佐 藤 久 人

第三社会の政治（ラジオ）

所 属	職 名	氏 名
経済学部	学務係	柴 原 泰 弘

簿記入門（ラジオ）

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
経理課	共済組合係長	立 石 学 範	契約室	契約第一係長	小 門 一 則
経理課	情報処理主任	藤 原 雄 一	契約室	契約第一主任	上 田 祐 介

地球とその歴史（テレビ）

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
教育学部	庶務係	尾 下 徳 彦	工学部	大学院係長	山 口 一 郎

雇用と法（ラジオ）

所 属	職 名	氏 名
医学部附属病院	人事係	堀 和 也

心理学初歩（テレビ）

所 属	職 名	氏 名
歯学部総務課	庶務主任	藤 島 章 子

バイオテクノロジー（テレビ）

所 属	職 名	氏 名
歯学部総務課	庶務主任	峰 松 るみ子

学習の心理学（テレビ）

所 属	職 名	氏 名
歯学部総務課	庶務主任	濱 野 美由紀

日本の自然（テレビ）

所 属	職 名	氏 名
歯学部	技術職員	立 川 絵 里

食物とからだ（テレビ）

所 属	職 名	氏 名
歯学部附属病院	看護師	大 塚 みどり

がんの健康科学(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
歯学部附属病院	看護師	酒 見 友佳子

母子の健康科学(ラジオ)

所 属	職 名	氏 名
医学部附属病院	看護師	松 尾 直 美

日本の文化と思想(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
歯学部附属病院	看護助手	峰 眞知子

人格心理学(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
薬学部	学務係	五 島 博 史

脳の健康科学(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
医学部	企画広報係長	土 屋 守 人

現代社会とスポーツ(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
学務課	専門職員	宮 本 年 彦

高齢者の心と身体(ラジオ)

所 属	職 名	氏 名
水産学部	会計主任	松 尾 公 子

大地と人間 - 職・農・環境の未来(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
熱帯医学研究所	研究補助員	森 内 俊 之

国際経済学(ラジオ)

所 属	職 名	氏 名
医学部附属病院	人事係長	潮 田 尚 次

こころの健康科学(ラジオ)

所 属	職 名	氏 名
歯学部附属病院	看護師	富 永 奈津子

子どもと若者の文化(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
歯学部附属病院	看護師	山 内 裕 子

法と裁判(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
医学部	用度係	高 永 愛里子

カウンセリング概説(ラジオ)

所 属	職 名	氏 名
工学部	学務主任	宮 路 清 正

宇宙とその歴史(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
環境科学部	専門職員	阪 上 政 則

言語発達心理学(ラジオ)

所 属	職 名	氏 名
環境科学部	庶務係	渡 邊 七 重

疾病の成立と回復促進(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
水産学部	学務主任	潮 田 喜 美 子

乳幼児心理学(テレビ)

所 属	職 名	氏 名
附属図書館	経済情報係	山 本 知 美

(総務部人事課)

経済学部で 新入生保護者に対する 学部説明会開催

経済学部では、平成11年度から新入生の保護者に対して、経済学部の現状、教育内容、卒業生の就職状況等を理解していただくため学部説明会を開催していますが、今回は、4月8日(月)入学式終了後、経済学部121番教室で説明会を開催し、約200名の参加



経済学部の概要と現状を説明する菅家学部長

がありました。説明会では、「経済学部の紹介ビデオ」、平成13年7月13日NHKで放送された「九州沖縄一

本勝負 - 地方大学は生き残れるか -」の放映を交えながら、①経済学部の概要と現状について(菅家学部長)、



熱心に聞き入る保護者

②経済学部の教育内容について(須齋教務委員長)、③卒業生の進路と就職指導について(藤田就職委員長)の説明があり、「本学部の教育の特徴」、「新入生としての心構え」、「卒業生の進路(就職状況)」等について新入生保護者の理解が深まったことはもとより、本学部が取り組んでいる学部改革、教育方法の改善等についての広報の一環としても有意義な説明会となりました。

(経済学部)

第5回長崎大学 ファカルティ・ ディベロップメント開催

本学では、4月10日(水)、平成13年5月2日以降の新任教官を対象に、第5回長崎大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)を開催しました。

今回のFDは、教育と研究に対する新任教官の意識改革を図るとともに、国立大学の教官として必要



講話する池田学長



説明する加藤副学長

な知識を習得させることを目的としており、57名が参加しました。

午前の部では、池田学長から「長崎大学が目指すもの」と題し、教育者・研究者としての認識と誇りを持ち、地域社会と国際社会での活躍を期待しているとの講話がなされ、その後、渡邊副学長、加藤副学長及び濱崎総務部長より、それぞれ研究の活性化、教育の充実及び事務機構について、説明が行われました。

午後の部では、事務局の担当課長より、国立大学における諸制度について、FDハンドブックを中心に説明が行われ、その後、各部局において各部局固有の事柄についてFDが実施されました。

今後も引き続き、新任教員及び現任教員のFDを実施することにしています。

(学務部学務課)

平成14年度長崎県下 国立学校等初任者研修実施

4月17日(水)及び18日(木)の2日間、長崎県下国立学校等初任者研修が事務局第3会議室及び国立諫早少年自然の家において実施されました。

この研修は、長崎大学に新たに採用された事務系職員に対し、国民全体の奉仕者としての国家公務員の使命と心構えを自覚させるとともに、長崎大学の職員として必要な業務遂行上の基礎知識、技能態度等を養成し、併せて長崎大学の職員としての一体感を培うことを目的としたもので、今回は6名が受講しました。

研修内容は、廣瀬事務局長の開講の挨拶の後、濱崎総務部長による「高等教育の変遷と改革」の講話に始まり、総務部、経理部及び学務部の課長補佐、係長による「大学の組織と運営」、「公文書の取扱いと情報公開」、「本学の産学連携の現状と課題」、「仕事の進め方」、「大学における会計制度」、「学生関係の新たなニーズと対応」、「本学の事務情報化」の講義のほか、平成13年4月に独立行政法人となった国

立諫早少年自然の家の所長による「独立行政法人化」の講義がありました。

また、初の試みとして、昨年この研修を受けた施設部建築課の岩下文香さんと医学部附属病院医事課の入口忠義さんから、初心者としての取るべき態度や心構えなど、自分の体験を交えてアドバイスと励ましがあり、受講生から大変好評を得ていました。

17日夜には国立諫早少年自然の家において、人事交流で同所に出向している職員を交えて懇親会があり、同期及び上司等との親睦が図られました。



研修者記念撮影

平成14年度 長崎県下国立学校等初任者研修受講者名簿

番号	氏名	所属	採用年月日	番号	氏名	所属	採用年月日
1	うちば ひろこ 内場 裕子	人事課職員係	13.10.1	4	いわもと いづみ 岩元 泉	医学部附属病院医事課	13.10.1
2	さかもと こういち 坂本 晃一	経済学部学務係	13.10.1	5	にしじま たかゆき 西嶋 隆之	施設部設備課機械係	14.4.1
3	はまばた あきふみ 濱端 哲史	水産学部会計係	13.10.1	6	じんの 陣野 ゆかり	歯学部業務課	14.4.1

(総務部人事課)

薬学部で「臨床教授」等の称号付与式挙行

薬学部では、平成11年度から「臨床教授制度」を導入しており、今年度の称号付与式を薬学部長室において4月17日(水)に挙行しました。

この臨床教授制度は、臨床教育に協力する学外の医療機関等の優れた医療人に対し、長崎大学薬学部が定める一定の基準（長崎大学薬学部臨床教授等の称号の付与等に関する規程）に基づいて「臨床教授」等の称号を付与し、臨床教育指導体制の充実を図ることを目的としています。

今回称号を付与されたのは、本学部と臨床実習教育協定を締結している滑石薬局を始めとする薬局の薬剤師15名で、それぞれの資格に応じて臨床教授1名、臨床助教授4名、臨床講師10名の称号が付与されました。

付与式では、中島学部長から各自に認定証が手渡された後、芳本大学院教務委員、松村教務委員を交えて、臨床実習教育現場における学生の実習状況等について意見交換を行いました。

平成14年度 長崎大学薬学部臨床教授等の称号付与者一覧

称号の種類	氏名	施設名	称号の種類	氏名	施設名
1 臨床教授	たかき やすし 高木 康	滑石薬局	9 臨床講師	たしろ ひろゆき 田代 浩幸	たしろ薬局
2 臨床助教授	はまだ てつや 濱田 哲也	上野町薬局	10 "	たはら つとむ 田原 務	うれり薬局
3 "	いのひら たみお 猪平 民雄	万屋町調剤薬局	11 "	なかむら ひろし 中村 博	大浦中央調剤薬局
4 "	ながた しゅういち 永田 修一	桜町調剤薬局	12 "	ばば みつき 馬場 満輝	(有)城山薬局
5 "	みやざきちやういちろう 宮崎長一郎	宮崎薬局	13 "	もとおか けんじ 元岡 憲治	湊町調剤薬局
6 臨床講師	いげさき たかし 池崎 隆司	浜口町薬局	14 "	やまがた こうすけ 山形 浩介	山形薬局
7 "	いで よういち 井手 陽一	(有)海岸通り薬局	15 "	たなべ さよこ 田辺佐代子	(財)輔仁会薬局
8 "	くわやま よしてる 桑山 良照	鶴見台薬局			



学部長から認定証を手渡される濱田氏



教務委員を交えての意見交換

(薬学部)

池田学長 ライデン大学で記念植樹

池田学長は、オランダ・ライデン大学からの要請を受け、4月22日(月)同大学を訪問し、関係者が見守る中、同大本館中庭において梅の木(紅千鳥)の記念植樹を行いました。この梅の木は、平成12年11月に行われた「長崎大学国際学術週間2000」に参加した同大学関係者の求めに応じて、池田学長が両大学間の交流推進のため寄贈したものです。

今回の訪問は、オランダで4月から10月まで開催されるフロリアード(花博覧会)及びオランダ東インド会社設立400周年記念事業に併せて行われた梅の木植樹のセレモニーに招待されたものですが、教育・学術交流に関する情報交換も行われ、同大学とのますますの交流の進展が図られました。

ライデン大学は、江戸時代の長崎に滞在し、医学をはじめ多くの分野で活躍したシーボルトと密接な関係にあり、シーボルトが持ち帰った日本の植物種を多数維持する植物園を運営しています。同大学とは、昭和62年、長崎大学医学部発祥130年記念式典を機会に交流が始まり、平成元年、医学部との部局間協定締結を経て、平成10年に大学間学術交流協定に発展し、現在に至っています。

また、本学においても、平成12年4月に日蘭交流400周年記念事業の一環として、同大学から5種類のシーボルト植物(里帰り)の寄贈を受け、シーボルト記念植物園を開園しています。

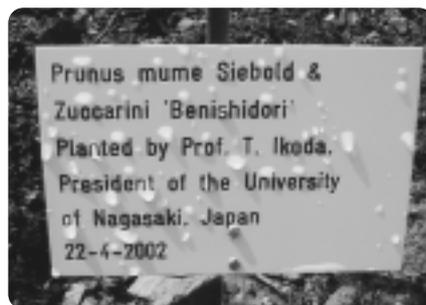
(総務部国際交流課)



植樹記念セレモニー



植樹



植樹記念プレート

平成14年春の生存者叙勲

平成14年春の生存者叙勲が4月29日(月)みどりの日に発表され、本学関係者では、長年にわたる文教行政、教育研究、保健衛生に尽くされた功績により次の4名の方が受賞されました。

名誉教授(元歯学部長)	佐々木 元 賢	勲等.....勲三等旭日中綬章
名誉教授(元薬学部長)	柴 崎 壽一郎	勲等.....勲三等旭日中綬章
元庶務部長	吉 田 剛 正	勲等.....勲五等双光旭日中章
元歯学部附属病院看護部長	川 浪 タツエ	勲等.....勲五等瑞宝章

(総務部人事課)

外国出張者等一覧(平成14年4月出国分)

外国出張

部局	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的	備考
	学長	池田 高良	オランダ	14.4.17 ~14.4.24	ライデン大学との教育・学術交流に関する打合せ及び情報交換	
	副学長	渡邊 正己	オランダ, ドイツ, オーストリア	14.4.19 ~14.4.28	ライデン大学, ビュルツブルグ大学及びウィーン大学との教育・学術交流に関する打合せ及び情報交換	
教育	助教授	全 炳徳	韓国	14.4.15 ~14.4.20	WCCE2002(国際ワークショップ)参加及び江原大学校での特別講演及び衛生データ解析に関する研究打合せ	
医学	助教授	瀬戸 信二	アメリカ	14.4.5 ~14.4.9	第3回動脈硬化, 血栓症並びに血管生物学会議出席及び発表	
"	講師	坂口 未廣	イタリア	14.4.10 ~14.4.18	国際プリオン生物学シンポジウム出席・発表及び研究打合せ	
"	教授	新川 詔夫	中国	14.4.12 ~14.4.16	ヒトゲノム会議2002年出席	科学技術振興事業団
"	教授	千住 秀明	イギリス	14.4.14 ~14.4.22	SWTの研究打ち合わせ及び情報交換	
"	助手	前田 茂人	韓国	14.4.14 ~14.4.17	アジア内内分泌外科学会出席及び発表	
"	教授	雨宮 次生	オーストラリア	14.4.20 ~14.4.27	第29回国際眼科学会議(ICO)出席・発表及び研究打合せ	
"	助教授	北岡 隆	オーストラリア	14.4.20 ~14.4.27	第29回国際眼科学会議(ICO)出席・発表及び研究打合せ	
"	講師	宮 華青	オーストラリア	14.4.20 ~14.4.27	第29回国際眼科学会議(ICO)出席・発表及び研究打合せ	
"	教授	田口 尚	韓国	14.4.27 ~14.4.29	第1回日韓腎病理カンファランス出席	
歯学	教授	山口 朗	イギリス	14.4.3 ~14.4.13	ロンドンのGuy's Shospitalで研究打ち合わせ及び第9回国際骨形態計測学会会議に参加	
薬学	教授	河野 通明	アメリカ	14.4.5 ~14.4.12	第93回米国がん学会大会出席・発表	
"	助教授	大庭 義史	イギリス	14.4.20 ~15.2.19	微量生理活性物質のLC-MS分析	在外研究員旅費
工学	教授	福永 博俊	オランダ, ポーランド, ベルギー	14.4.26 ~14.5.8	Intermag Europe 2002にて講演発表, 研究打合せ及び資料収集	
"	助手	中野 正基	オランダ, ポーランド, ベルギー	14.4.26 ~14.5.8	Intermag Europe 2002にて講演発表, 研究打合せ及び資料収集	
環境	助教授	杉山 和一	韓国	14.4.15 ~14.4.18	International Workshop CCD Camera and Eco-factor Estimation参加, リモートセンシングとGISに関する研究発表及び研究打合せ	
熱研	技術補佐員	前川 芳秀	インドネシア	14.4.9 ~15.3.31	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	
"	技術補佐員	吉永 一未	インドネシア	14.4.20 ~15.3.31	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	
"	教授	門司 和彦	ベトナム	14.4.21 ~14.4.25	拠点大学方式学術交流事業による共同研究実施	日本学術振興会
生産	教授	萩原 篤志	中国	14.4.23 ~14.4.28	会議(シンポジウム)出席, 講演	
総務	国際交流課長	吉住 誠司	オランダ	14.4.17 ~14.4.24	ライデン大学との学術交流に関する事務打合せ及び情報交換	

部局	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的	備考
総務	専門職員	葛島 浩司	オランダ	14.4.17 ~14.4.24	ライデン大学との学術交流に関する事務打合せ及び情報交換	

海外研修

部局	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的	備考
経済	助教授	神園 健次	アメリカ	14.4.2 ~14.4.8	「第5回コロンビア大学=ジャフィー金融工学国際会議」出席及び報告、並びに数理ファイナンスに関する資料収集	
医学	助手	早田 宏	アメリカ	14.4.5 ~14.4.11	第93回米国癌学会(AACR)出席及び発表	
"	助教授	岡 三喜男	アメリカ	14.4.6 ~14.4.11	第93回米国癌学会(AACR)出席及び発表	
"	教授	朝長万左男	アメリカ	14.4.30 ~14.5.12	IPPNW大会出席及び米国の代表的癌研究所視察	
"	教授	河野 茂	イタリア, ドイツ, スロベニア, フランス	14.4.23 ~14.5.7	第12回ヨーロッパ臨床細菌及び感染症学会発表・アベロックス会議出席・病院見学, 資料収集・ヨーロッパ化学療法学会シンポジスト	
水産	教授	槌本 六良	韓国	14.4.26 ~14.4.29	生鮮魚の肉質に関する国際シンポジウム出席及び講演	
医病	助手	前田 茂人	韓国	14.4.14 ~14.4.17	第8回アジア内分泌外科学会出席及び発表	
生産	助教授	清水 康博	ドイツ	14.4.27 ~14.5.4	日独情報技術フォーラム出席, 講演発表, 討論	

(総務部国際交流課)



外国人研究者受入状況(平成14年3月分)

(見学・表敬訪問等を除く)

部局	氏名	国籍	所属機関・職名等	受入期間	受入者の官職・氏名	本学における活動内容	備考
医学	オットー エイベン	ハンガリー	エトヴェシュ・ロー ランド大学	14.3.24 ～ 14.3.29	教授 門司 和彦	長崎大学の教官と研究に 関する意見交換及び講演	
"	アシロバ アイヌール	カザフスタ ン	カザフスタン保健省 国際協力部門 専門家	14.3.28 ～ 14.4.2	教授 山下 俊一	原研の機能, 役割, 遠隔 医療支援システムに關す る打合せ	
薬学	モリス メデビエール	フランス	クロードベルナル リヨン第1大学 教授	14.3.8 ～ 14.3.9	教授 松村 功啓	研究打ち合わせ及び学術 講演	
"	ライク ウル ラーマン	インド	薬用植物中央研究所 遺伝資源及びバイオ テクノロジー分野 研究員	14.3.25 ～ 15.3.24	助教授 山本 浩文	薬用植物への有用遺伝子 導入に關する研究	外国人客員 研究員
熱研	コマン ルグドウク	インドネシ ア	N T B 州衛生局 伝 染病・環境保健部長	14.3.7 ～ 14.3.15	教授 神原 廣二	特別講演及び研究協議	
"	ド クワン ハ	ベトナム	ホーチミンパスツ ール研究所	14.3.10 ～ 14.3.17	教授 森田 公一	蚊媒介性疾患に關する研 究	
"	ジョイス ンヤ ブラ ギット	ケニア	ケニア医学研究所	14.3.18 ～ 15.2.13	教授 高木 正洋	ケニア感染症及び寄生虫 対策プロジェクトカウン ターパート研修	

(総務部国際交流課)

主要行事等

(平成14年4月1日～4月30日)

部局	日	事項	部局	日	事項
事務局	3	国立大学長・大学共同利用機関長等会議	薬学部	3	定例学部教授会
	4	平成14年度新入生オリエンテーション(～5)		17	定例大学院薬学部研究科教授会・学部教授会
	8	平成14年度入学式	"	"	平成14年度長崎大学薬学部臨床教授等称号付与式
	"	会計検査院実地検査(～12)	工学部	11	学科長会・代議員会
	10	第5回長崎大学ファカルティ・ディベロップメント		18	定例教授会・工学研究科委員会・前期課程工学系委員会
	12	国大協臨時理事会	環境科学部	1	環境科学研究科門標上掲式
	14	平成14年度新歓祭		4	臨時教授会
	15	留学生交流委員会		9	環境科学研究科入学試験(～10)
	16	第5回事務組織専門委員会		11	臨時研究科教授会
	"	第1回学生委員会		15	環境科学研究科合格者発表
	"	公務員ガイダンス		17	定例教授会・定例研究科教授会
	"	九州地区国立学校等経理部課長会議	22	環境科学研究科入学式	
	17	平成14年度長崎県下国立学校等初任者研修(～18)	水産学部	17	定例教授会
	19	国大協臨時総会	熱帯医学研究所	3	定例教授会
	23	組替えDNA実験安全委員会		17	定例教授会
	"	事務連絡協議会	医学部附属病	17	臨床主任会議
	"	第10回全学教育実施委員会		22	医局長会議
	25	平成14年度九州地区国立大学事務局長会議(～26)	歯学部附属病	16	業務連絡協議会
	26	大学改革推進委員会学部教育専門委員会		生産科学研究科	4
	"	部局長会議	8		平成14年度長崎大学大学院生産科学研究科(博士後期課程)追加募集入学試験(～9)
	"	第505回評議会	11		臨時教授会
	"	第33回大学改革推進委員会	"		後期課程委員会
			16		平成14年度長崎大学大学院生産科学研究科(博士後期課程)追加募集合格者発表
			17		前期課程水産学系委員会
	教育学部	8	始業式(附属小学校)	18	代議員会
		"	"(附属中学校)	"	前期課程工学系委員会
"		"(附属養護学校)	22	平成14年度長崎大学大学院生産科学研究科(博士後期課程)追加募集合格者の入学手続き(～23)	
"		"(附属幼稚園)	医歯薬学総合研究科	11	医歯薬学総合研究科教授会
9		入学式(附属中学校)		25	医歯薬学総合研究科入学式
10		"(附属小学校)	学内共同教育研究施設等	23	第1回地域共同研究センター運営委員会
"	教授会	"		第1回大学教育機能開発センター運営委員会	
11	入学式(附属養護学校)	25		生涯学習教育研究センター運営委員会	
12	入園式(附属幼稚園)	医療技術短期大学部	4	定例医療技術短期大学部教授会	
経済学部	10		定例教授会	"	定例保健学科会議
	24	定例教授会	18	定例医療技術短期大学部教授会	
	25	平成14年度三大学経済学部長・事務長会議	"	定例保健学科会議	
医学部	3	定例大学院医学研究科教授会, 学部教授会			
歯学部	17	定例教授会			

お知らせ

訃報

- 名誉教授（元水産学部教授）八坂 茂氏（99歳）は4月24日(水)逝去されました。
ここに、謹んで哀悼の意を表します。
告別式は4月27日(土)、法倫会館（長崎市茂里町）にて執り行われました。

教育研究事項

電気化学会 進歩賞・佐野賞受賞

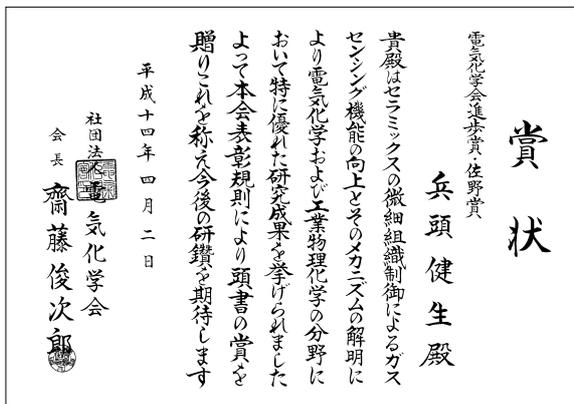
工学部材料工学科 兵頭健生助手が、「セラミックスの微細組織制御によるガスセンシング機能の向上とそのメカニズムの解明」の研究成果に対して、電気化学会 進歩賞・佐野賞を4月2日(火)に受賞されました。

同賞は、電気化学及び工業物理化学に関する研究または新しい技術の開発を進め、その進歩が顕著であると認められる35歳以下の電気化学会会員の中から、毎年、3名以内に授与されるものです。

なお、授賞式は、同日(電気化学会第69回大会(東北大学)会期中)仙台国際センターにおいて行われました。



工学部材料工学科
兵頭健生 助手

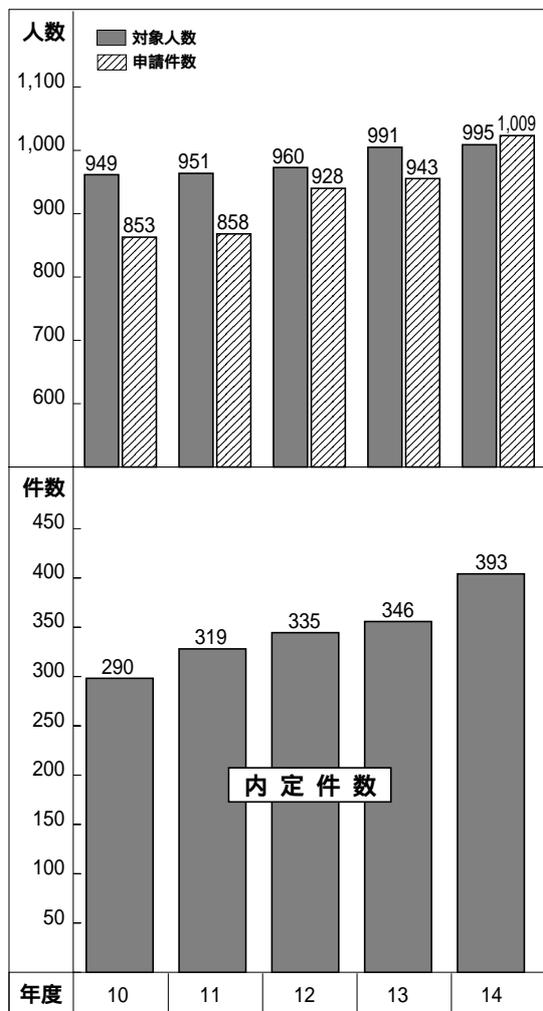


(工学部)

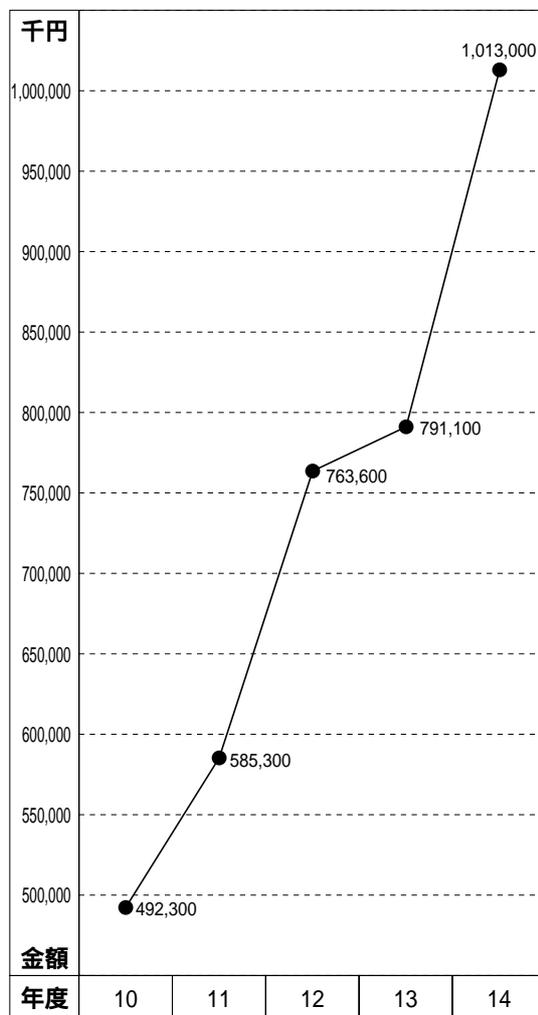
科学研究費補助金の概要

長崎大学における科学研究費補助金(特別研究員奨励費を除く。)の平成10年度から平成14年度までの申請・採択等の概況は次のとおりです。

申請・内定件数及び対象研究者数



内定金額の推移



1. 対象研究者は、公募時期(11月)における教員等の数。
ただし、医学部・歯学部は附属病院の教官，水産学部は附属練習船の教官を含む。
2. 内定件数・金額は、各年度における当初の内定件数・金額。(間接経費は含まれていません。)
3. 平成14年度は、4月末現在。

平成14年度科学研究費補助金採択一覧

金額単位：千円

種目 学部等	特定領域		地域連携推進		基盤研究 S		基盤研究 A		基盤研究 B		基盤研究 C		萌芽研究		若手研究 A		若手研究 B		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
教育学部	(1) 1	2,500					(1)		(6) 2	9,100	(30) 9	9,300	(5) 1	2,000			(3)		(46) 13	22,900
経済学部									(2)		(14) 4	2,500	(1)				(17) 5	4,000	(34) 9	6,500
医学部(医)	(47) 12	68,100			(1) 1	21,800	(2) 1	10,100	(41) 17	86,900	(141) 76	119,400	(57) 7	10,900	(3)		(27) 18	22,200	(319) 132	339,400
＂(保)									(2) 1	1,000	(15) 9	9,300	(6) 3	2,900			(6) 1	500	(29) 14	13,700
歯学部	(9) 4	24,800			(2) 1	18,300	(3) 1	6,000	(22) 11	54,000	(52) 19	26,200	(23) 5	7,300	(2)		(52) 35	39,200	(165) 76	175,800
薬学部	(26) 7	26,200			(1) 1	33,500	(1)		(13) 7	36,200	(17) 9	12,900	(15) 3	5,900			(11) 7	13,900	(84) 34	128,600
工学部	(5) 1	5,800	(1) 1	3,000	(1)		(3)		(20) 7	22,500	(45) 11	15,300	(19) 4	7,700	(5) 2	25,200	(19) 8	7,900	(118) 34	87,400
環境科学部	(5) 2	5,000					(1)		(8) 3	12,700	(28) 9	12,200	(10)				(6) 5	5,100	(58) 19	35,000
水産学部					(1) 1	20,700	(1) 1	17,000	(5) 2	10,200	(22) 8	10,300	(3)		(1)		(3) 2	2,200	(36) 14	60,400
熱帯医学研究所	(15) 2	9,500					(2) 2	19,600	(18) 12	49,500	(19) 11	19,700	(7)		(1)		(4) 3	2,100	(66) 30	100,400
生産科学研究科	(6) 1	2,100							(8) 3	13,200	(12) 7	13,300	(5) 2	5,200			(4) 1	900	(35) 14	34,700
保健管理センター									(1)		(3) 2	3,500							(4) 2	3,500
アイソトープ総合センター	(1)										(1)								(2) 0	0
総合情報処理センター											(1)						(1) 1	1,900	(2) 1	1,900
地域共同研究センター													(1)						(1) 0	0
環境保全センター	(1)												(1)		(1)				(3) 0	0
留学生センター											(2)		(1)						(3) 0	0
機器分析センター											(1)								(1) 0	0
遺伝子実験施設											(2) 1	2,800							(2) 1	2,800
計	(116) 30	144,000	(1) 1	3,000	(6) 4	94,300	(14) 5	52,700	(146) 65	295,300	(405) 175	256,700	(154) 25	41,900	(13) 2	25,200	(153) 86	99,900	(1,008) 393	1,013,000

上段()書きは応募件数
継続課題分を含む

(総務部研究協力課)

●平成14年度長崎大学公開講座一覧

平成14年度に実施される公開講座は次のとおりです。

講座名	実施責任者	開設日時 実施場所	開設日数 総時間 受講料	受講対象者 (募集人数)	講座の概要
現代経営：構造改革下の企業の進路	経済学部 教授 内田 滋	6/7～7/19 毎週金曜日 19:00～20:30 経済学部 大講義室	全7回 5,800円	一般市民 60名	不況の長期化を含めて、わが国の産業経済・企業経営・市民生活を取り巻く環境変化には、かつてないほどの著しいものがあります。構造改革問題は、いまや地域経済のみならず国際経済面でも関心を呼んでいます。市場のグローバル化や自由化も進んでおり、経済社会での競争と共生などを考えるためにも、今年度は経済構造改革下において企業はどう進路をとるべきかについて、中小企業・金融経済・国際経営・ITと情報管理・企業会計・知的財産権・人事労務等にわたる幅広い観点から検討し、企業経営のヒントを探ります。
長崎比較文化研究講座	生涯学習教育研究センター 助教授 新田 照夫	6/7～3/7 毎月第1金曜日 13:00～15:00 生涯学習教育研究センター1F 研修室	全10回 7,800円	一般市民(郷土史および中世期の日中文化、技術交流史に興味のある方)	長崎大学の講師を中心とした、在野における郷土の歴史・文化の研究者が講義を進めます。受講者と講師陣が討議を通す中で、お互いの歴史認識に相互理解の橋をかけるとともに、自らの歴史認識に新たに視野を発見することを目的とします。
薬学講座 くすりの科学	薬学部 助教授 伊藤 潔	6/20～9/19 毎月木曜日 19:00～20:00 長崎県薬剤師会館4階講義室	全4回 4,800円	薬剤師 35名	麻薬の乱用や環境中の有害物質の話題、および脳についてのゲノム研究との関わりについて話題を提供し、薬剤師職能と薬学の教育研究の関係にも言及します。講座を通し、21世紀を担っていく薬剤師像を共に考えましょう。
人間形成の言語教育	生涯学習教育研究センター長 糸山 景大	6/21～3/21 毎月第3金曜日 13:00～15:00 生涯学習教育研究センター1F 研修室	全10回 7,800円	語学担当の教師 及び一般市民 12名	人と人との対話を含む社会的人間形成の部分に注目します。そして、語学教育が教えるべき内容についてカリキュラム化を試みます。

講座名	実施責任者	開設日時 実施場所	開設日数 総時間 受講料	受講対象者 (募集人数)	講座の概要
地域に根差した美術Ⅴ	教育学部 教授 井川 惺 亮	7 / 14・10 / 20 13 : 30 ~ 15 : 30 8 / 25・9 / 29 13 : 30 ~ 16 : 30 毎週日曜日 教育学部附属教育実践総合センター	全4回 5,800円	一般市民 50名	アートと地域社会との連携について、例として“図書館作りと駅ギャラリー”、“大学(東京芸術大学)と地域文化へのプロジェクト”、“リサイクルアートの実習”をわかりやすく講義します。
水産講座	水産学部 助教授 亀田 和 彦	期日未定 13 : 00 ~ 18 : 00 会場未定	全1回 4,800円	水産関係者 40名	杵岐の水産業振興のため、資源生態、資源管理、地域おこし等の分野で講義及び討論を行います。
彫刻の世界をのぞいてみよう 手を作る	教育学部 教授 佐藤 敬 助	8 / 4 ~ 9 / 14 初回日曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 以降毎週土曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 教育学部	全7回 7,800円	一般市民 15名	彫刻という立体表現へのアプローチを手がかりとして、より豊かな感性をベースとした生活観を目指します。
地域温暖化と私達の生活	環境科学部 教授 土屋 勝 彦	8 / 10 ~ 8 / 24 毎週土曜日 13 : 00 ~ 16 : 00 環境科学部 大会議室	全3回 5,800円	一般市民 30名	人類の豊かさへの飽くなき追求と、それによってもたらされる地域温暖化などの地球規模の環境問題について考え、環境の世紀といわれる21世紀になった今、環境問題の防止のためには、これからの新しいライフスタイルはどうあるべきかについて、市民とともに考える対話的な講座を試みます。
生活のなかの心理学	教育学部 教授 村田 義 幸	8 / 30 ~ 9 / 27 毎週金曜日 13 : 00 ~ 15 : 30 教育学部	全5回 5,800円	一般市民 20名	衣、食、住や対人関係など生活のなかにある心理学的テーマについて考えます。
生き生き健康ライフ講座Ⅳ	大分県地域成人病検診センター 松元 義 人	8 / 31 ~ 9 / 14 毎週土曜日 13 : 30 ~ 15 : 00 医学部 第1講義室	全3回 4,800円	一般市民・医師 ・栄養士・看護師 ・運動療法士 など 60名	糖尿病、動脈硬化などの生活習慣病、更年期、中・高年におけるこころの病気、小児のアレルギーなどについて、その実態と予防のための食事運動など生活改善のポイントや最新の治療について講演します。
パソコン入門 マルチメディアとインターネット	総合情報処理センター 講師 野崎 剛一	9 / 7 ~ 10 / 5 毎週土曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 総合情報処理センター	全5回 5,800円	パソコンやインターネット利用 初心者 40名	Windows パソコンを使ってインターネットの様々な利用の仕方を学びます。(デジタルカメラの利用や携帯電話とのメール利用など)

講座名	実施責任者	開設日時 実施場所	開設日数 時間 受講料	受講対象者 (募集人数)	講座の概要
家庭における介護技術 坂道地域に住む人々の在宅支援	医学部保健学科 教授 石原和子	9/10 13:00~17:00 医学部保健学科	全1回 4,800円	一般市民・介護 従事者 30名	長崎の特徴である「坂道地域」に居住する人々の日常生活を拡大するための援助技術を紹介し、実施します。移床・移動に関しては、技術演習を行います。
世界と日本の経済動向 2002年秋	経済学部 教授 井手啓二	9/26~11/7 毎週木曜日 18:30~20:00 経済学部 303講義室	全7回 5,800円	一般市民 35名	アメリカの景気後退、日本経済の長期低迷、中国経済の高度成長、そして9・11テロ事件、ユーロ現金流通開始、中国指導部の交替など世界経済には激動、混迷が続いています。本講座は、世界経済の最新の注目点の解明を課題としています。
ウィークエンド・コンサート	教育学部 教授 堀内伊吹	10/5~11/30 毎週土曜日 14:00~16:00 但し、 10/26,11/9, 11/23は無し 教育学部音楽棟 2階第2番教室	全6回 6,800円	一般市民 30名	「音楽の楽しみ」を音楽教育講座の教員が、熱く語りそして演奏します。
21世紀の情報システム技術	工学部 教授 小栗清	10/19~11/2 毎週土曜日 13:30~15:30 工学部 12番講義室	全3回 5,800円	一般市民 40名	目覚ましく発展する情報化技術について、地方の方々に最新の技術を紹介して情報を共有すると共に、連携によって「地域の発展」および「新ビジネスの創出」に貢献します。
歯科偶発症の臨床	歯学部 助手 上原雅隆	11/24 13:00~16:00 歯学部C棟6階 第3会議室	全1回 4,800円	歯科医師，歯科 衛生士，歯科医 療従事者 8名	高齢化社会の今日、一般歯科臨床においても全身疾患を有する患者を治療する機会が増加しています。これに伴って、歯科治療時の全身的、局所的偶発症の発生頻度もまた増加してきています。このため、歯科偶発症に対する認識を深めると共に、適切な対応についての研鑽もまた重要です。本講座は、日常臨床への寄与という面から、歯科治療に際してみられる全身的・局所的偶発症について、講義と実習を少人数制で行うことを目的として企画されました。

(総務部総務課)

人事

◎人事異動（平成14年4月1日分を含む）

学長発令

任免等の区分	発令年月日	氏名	現官職	発令内容	備考
採用	14.4.2	中村 俊一郎		学務部学務課付 助手	
	14.4.16	北村 雅保		大学院医歯薬学総合研究科 助手	健康予防科学
	14.5.1	温 春陽		医学部附属原爆後障害医療研究施設 助手	放射線障害解析
	14.5.1	早坂 大輔		熱帯医学研究所 助手	宿主病態解析
	14.5.1	道津 充		大学院医歯薬学総合研究科 助手	病態解析・制御学
	14.5.1	劉 殿閣		大学院医歯薬学総合研究科 助手	病態解析・制御学
	14.5.1	豊屋 睦人		大学院医歯薬学総合研究科 助手	発生分化機能再建学
昇任	14.5.1	林田 雅希	保健管理センター 講師	保健管理センター 助教授	
	14.5.1	中尾 一彦	保健管理センター 講師	保健管理センター 助教授	
	14.5.1	原 哲也	大学院医歯薬学総合研究科 助手	医学部附属病院 講師	麻酔科
配置換	14.4.15	齋藤 圭	経理部契約室契約第一係	工学部会計係	
	14.5.1	山田 泰之	医学部附属病院 助手	大学院医歯薬学総合研究科 助手	病態解析・制御学
	14.5.1	中尾 祐子	歯学部附属病院 看護部 看護助手	歯学部附属病院 看護部 看護師	
転任	14.4.16	山崎 浩則	長崎刑務所	大学院医歯薬学総合研究科 助手	病態解析・制御学
休職	14.4.15	金子 高士	大学院医歯薬学総合研究科 助手	研究休職	～16.4.14
育児休業	14.4.4	鮎瀬 てるみ	歯学部附属病院 助手		～14.6.28
併任	14.4.1	山本 直樹	東京医科歯科大学 教授	熱帯医学研究所 教授	～15.3.31
	14.4.16	北村 雅保	大学院医歯薬学総合研究科 助手	歯学部 助手	
	14.5.1	福井 昭史	教育学部 教授	教育学部附属教育実践総合センター長	～16.4.40
	14.5.1	山田 泰之	大学院医歯薬学総合研究科 助手	医学部 助手	
	14.5.1	劉 殿閣	大学院医歯薬学総合研究科 助手	医学部 助手	
	14.5.1	豊屋 睦人	大学院医歯薬学総合研究科 助手	歯学部 助手	
併任解除	14.5.1	北村 右一	教育学部 教授	教育学部附属教育実践総合センター長	
	14.5.1	西山 毅	大学院医歯薬学総合研究科 助手	歯学部 助手	

任免等の区分	発令年月日	氏名	現官職	発令内容	備考
命	14.4.15	栗山一孝	大学教育機能開発センター 教授	大学教育機能開発センター副センター長	
	14.4.16	中根允文	大学院医歯薬学総合研究科 教授	医学部附属病院神経外科長事務取扱	
	14.4.23	橋本健夫	教育学部 教授	大学教育機能開発センター兼務教官	~16.3.31
	14.4.23	糸山景大	教育学部 教授	大学教育機能開発センター兼務教官	~16.3.31
	14.4.23	茂地 徹	工学部 教授	大学教育機能開発センター兼務教官	~16.3.31
	14.4.23	鈴木慶子	教育学部 助教授	大学教育機能開発センター兼務教官	~16.3.31
	14.5.1	橋本健夫	教育学部 教授	アドミッションセンター兼務教官	~16.4.30
	14.5.1	赤崎眞弓	教育学部 教授	アドミッションセンター兼務教官	~16.4.30
	14.5.1	平岡賢治	教育学部 助教授	アドミッションセンター兼務教官	~16.4.30
	14.5.1	峯田天雄	大学院医歯薬学総合研究科 助教授	アドミッションセンター兼務教官	~16.4.30
	14.5.1	芦澤和人	大学院医歯薬学総合研究科 助手	医学部附属病院 放射線科医局長	
	14.5.1	尾崎和子	歯学部附属病院 看護部 看護師	医学部附属病院 看護部勤務	~14.6.30
免	14.4.16	澄川耕二	大学院医歯薬学総合研究科 教授	医学部附属病院脳神経外科長事務取扱	
	14.5.1	磯本一郎	医学部附属病院 講師	医学部附属病院放射線科医局長	

他機関転出者

発令年月日	氏名	現官職	発令内容	備考
14.5.1	西山 毅	大学院医歯薬学総合研究科 助手	鹿児島大学	

●氏名の変更

年月日	所属	官職	新氏名	旧氏名
14.4.12	医学部 附属病院	事務補佐員	金澤 恭子	古川 恭子

学外の会議

事務局

国立大学長・大学共同利用機関長等会議
(4月3日(水) 於三田共用会議所 [東京])

- (1) 当面の諸問題について

経済学部

平成14年度三大学経済学部長・事務長会議
(4月25日(木) 於大分大学)

- (1) 推薦入学合格者A O入試合格者の入学前学習について
- (2) 国立大学法人化に向けての対応について
- (3) 厳格な成績評価システムについて

学内の会議

留学生交流委員会 (4月15日(月)開催)

- (1) 平成14年度大学推薦による国費外国人留学生 (研究留学生) の推薦基準について
- (2) 平成14年度大学推薦による国費外国人留学生 (研究留学生) の推薦について
- (3) その他

第5回事務組織専門委員会 (4月16日(火)開催)

- (1) 平成15年度概算要求事項について
- (2) 情報処理関係の事務一元化について
- (3) 学部事務の改善について
- (4) その他

第1回学生委員会 (4月16日(火)開催)

- (1) 学生委員会の下に置かれる専門委員会等について
- (2) 平成14年度入学料免除申請者の選考について
- (3) 長崎大学授業料免除者選考に関する取扱要領の一部改正について
- (4) その他

組換えDNA実験安全委員会 (4月23日(火)開催)

- (1) 委員長の選出について
- (2) 長崎大学組換えDNA実験安全管理規則の改正について
- (3) 組換えDNA実験計画の審査について

事務連絡協議会 (4月23日(火)開催)

- (1) 長崎大学情報セキュリティ対策委員会規則の制定について
- (2) 長崎大学受託研究員規則の一部改正について
- (3) 経理課課長補佐の配置に伴う学内規則の整備について
- (4) その他

第10回全学教育実施委員会 (4月23日(火)開催)

- (1) 全学教育に関するアンケート調査 (教官用) について
- (2) 平成14年度全学教育運営費予算について
- (3) その他

第1回地域共同研究センター運営委員会
(4月23日(火)開催)

- (1) 平成14年度事業計画について
- (2) 平成14年度運営費等の所要見込額について
- (3) 研究分野の見直しについて
- (4) その他

第1回大学教育機能開発センター運営委員会**(4月23日(火)開催)**

- (1) 全学教育研究部門及び評価・FD研究部門の部門長の選出について
- (2) 大学教育機能開発センター運営費について
- (3) その他

第44回生涯学習教育研究センター運営委員会**(4月25日(木)開催)**

- (1) 平成14年度センター事業計画について
- (2) 平成14年度センター予算計画について
- (3) 平成14年度叢書編集委員承認について
- (4) 平成14年度公開講座について

大学改革推進委員会学部教育専門委員会**(4月26日(金)開催)**

- (1) 各WGの委員構成について
- (2) 今後の検討の進め方について
- (3) その他

部局長会議(4月26日(金)開催)

- (1) 保健管理センター教官人事について
- (2) 名誉教授の選考について
- (3) 長崎大学情報セキュリティ対策委員会規則の制定について
- (4) 長崎大学受託研究員規則の一部改正について
- (5) その他

第505回評議会(4月26日(金)開催)

- (1) 学長候補者の選考について
- (2) 名誉教授の選考について
- (3) 長崎大学情報セキュリティ対策委員会規則の制定について
- (4) 国立大学法人化に対応する学内検討体制について
- (5) その他

第33回大学改革推進委員会(4月26日(金)開催)

- (1) 国立大学法人化に対応する学内検討体制について
- (2) その他

長崎大学学報

平成14年5月1日 第632号

編集発行

長崎大学総務部総務課

〒852 8521 長崎市文教町1番14号

☎ (095) 847 - 1111(代)